

アレルギー疾患 医療従事者等研修会 参加者募集

Web開催（無料）
定員 250名

6つの分科会にてアレルギー疾患に関して専門的な知識を有する医療者により、最新の科学的知見に基づいた適切な医療について研修を行います。



会期

講義（オンデマンド配信）

令和4年1月17日（月）12:00～1月30日（日）13:50

質疑（Webexライブ配信）

令和4年1月30日（日）14:00～16:00（予定）

主催

兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院（研修当番病院：兵庫県立こども病院）

開催形式

完全Web開催 講義：オンデマンド配信／質疑：ライブ配信（Cisco Webex Meetings）
事前に講義を受講し、質疑にご参加ください。

分科会

質疑（Webexライブ配信）

講義（オンデマンド配信）

1	講義名▶ 気管支喘息治療に対する考え方 演者▶ 北播磨総合医療センター 院長 西村善博 先生	1月30日（日） 14:05～14:25	配信期間
2	講義名▶ “意外に診断に手こずりやすい” 大人の食物アレルギー 演者▶ はらだ皮膚科クリニック 院長 原田晋 先生	14:25～14:45	
3	講義名▶ アトピー性皮膚炎—子どもから高齢者まで— 演者▶ 神戸市立医療センター中央市民病院 皮膚科 小倉香奈子 先生	14:45～15:05	1月17日（月） 12:00
4	講義名▶ 舌下免疫療法～アレルゲン免疫療法の基本から～ 演者▶ 神戸市立医療センター中央市民病院 小児科・アレルギー科 李崇至 先生	15:05～15:25	}
5	講義名▶ アナフィラキシー対応 up to date 演者▶ 兵庫県立こども病院アレルギー科 百々菜月 先生	15:25～15:45	1月30日（日） 13:50
6	講義名▶ 食物アレルギーにおける栄養指導の工夫 演者▶ 兵庫県立こども病院栄養管理課 管理栄養士 堀田亮子 先生	15:45～16:00	

申込方法

専用サイト <https://www.e-hyogo.elg-front.jp/hyogo/uketsuke/form.do?id=1637557507993>

または右記QRコードよりお申込みください。

申込期限

令和4年1月10日（月）



主催 兵庫県、兵庫県アレルギー疾患医療連絡協議会

共催 (公財) 日本アレルギー協会関西支部

後援 (一社) 兵庫県医師会、(公社) 兵庫県看護協会、(一社) 兵庫県薬剤師会、(公社) 兵庫県栄養士会

分科会講義概要

オンデマンド配信のため、希望する分科会を全て受講できます。
ライブ配信（質疑応答）前に受講ください。

1 気管支喘息治療に対する考え方 北播磨総合医療センター 院長 西村善博 先生

気管支喘息は慢性気道炎症を主体とする疾患で基本治療は吸入ステロイド薬を中心とした抗炎症薬です。しかし、現在多くのデバイス、薬剤の組み合わせ（配合薬）があり、分かりにくくなっているのではないのでしょうか。多々ある吸入薬のどれを選択するか、どのように使っていくかを解説します。

2 “意外に診断に手こずりやすい” 大人の食物アレルギー はらだ皮膚科クリニック 院長 原田晋 先生

今回、大人に起こりやすい食物アレルギーとして、1)食物依存性運動誘発アナフィラキシー、2)花粉類との交差反応で生じる食物アレルギー(Pollen-Food Allergy Syndrome)、3)ラテックスゴムとの交差反応で生じる果物アレルギー(Latex-Fruits Syndrome)の3つの疾患について述べます。食物自体によって感作が生じ、その食物の単独摂取で症状が発現する子供の食物アレルギーとは異なり、大人に起こりやすい食物アレルギーでは、1)運動や鎮痛剤服用などの共因子を必要とする、2)交差反応によって発症する、などの場合があり、意外に診断に手こずるケースが少なくないため注意を要します。

3 アトピー性皮膚炎 —子どもから高齢者まで— 神戸市立医療センター中央市民病院 皮膚科 小倉香奈子 先生

アトピー性皮膚炎は、乳児から高齢者まで幅広く認める疾患です。特に乳幼児期、小児期での発症が多く、食物アレルギーの合併への対応が必要になり、成長とともに気管支喘息やアレルギー性鼻炎を合併することもあります。2018年、生物学的製剤が適応になったのを皮切りに、新たな外用剤、内服薬が次々に登場していますが、洗浄や保湿によるスキンケア、外用治療が重要であることに変わりはありません。アトピー性皮膚炎とその一般的な治療について紹介します。

4 舌下免疫療法 ～アレルギー免疫療法の基本から～ 神戸市立医療センター中央市民病院 小児科・アレルギー科 李崇至 先生

これまでアレルギー性鼻炎の治療は、抗ヒスタミン薬・点鼻ステロイド薬など使用されてきましたが、これらは対症療法であり根本的な治療とは言えません。近年、アレルギー免疫療法が確立してきており、アレルギー体質自体を改善させる事が可能となりました。花粉症は「つらい症状を抑える治療」から「治す」時代になりつつあります。今回はその中でも新しい治療法である舌下免疫療法に関して紹介します。

5 アナフィラキシー対応 up to date 兵庫県立こども病院アレルギー科 百々菜月 先生

食物、医薬品、ハチ毒など様々な原因により複数臓器にアレルギー症状をきたすアナフィラキシーは時に致命的となることがあります。従ってアナフィラキシーへの対応は医療従事者なら必須です。本講演ではアナフィラキシーについて最新の定義や早期の認識やアドレナリン投与の重要性、対応の流れについて解説します。また、アナフィラキシーの既往のある患者へはエピペン®を含めた患者指導も重要であり、当院での患者指導についても紹介します。

6 食物アレルギーにおける 栄養指導の工夫 兵庫県立こども病院栄養管理課 管理栄養士 堀田亮子 先生

食物アレルギーの食事療法は、正しい診断に基づいた「必要最小限の食物除去」が基本です。不必要な食物除去は、食物アレルギーの発症リスクを高めるばかりか、成長発達の妨げや、患者・家族のQOLの低下につながるため、避けなければなりません。栄養指導では、症状を起こさずに「食べること」を共通の目的とし、患者個々の嗜好、摂食能力、生活状況、保護者の理解・調理能力などを把握した上で、より具体的な指導を行う必要があります。今回は、当院における栄養指導の実際について紹介します。